

# 平成25年度 高津区地域課題対応事業 評価書

## 1 基本情報

予算中事業コード	40	予算小事業コード	05	事業名	高津区協働事業提案事業		
事業所管課	企画課			担当者	田島	連絡先	044-861-3132
関係局(局区連携事業は記載)							

## 2 地域課題・事業の概要

事業によって解決すべき課題	地域の課題が多様化する状況の中で、すべての区民ニーズに行政がきめ細やかに対応することは困難な状況にある。一方で、地域においては市民による公共的な活動が行われている。市民の生活者としての視点・発想を活かし、市民の皆さんと相互に連携・協力し、課題の解決やサービスを提供していくことが必要である。
事業概要	(1)市民の提案を基に、市民と協働で地域の課題を解決する。 (2)市民から事業提案を募集し、その提案の中で優れたものを選定し、その事業を提案者(市民)自らが区と協働して執行する。 (3)事業選定に当たっては、高津区協働事業提案選考・外部評価委員会を設置する。

## 3 予算・事業目標・取組の成果

当初予算額	3,702,000	予算額(調整後)	3,130,000	決算額	3,040,934	不用額	89,066
不用の理由	採択事業が予定よりも1事業少なく、採択された2事業の委託料が予定よりも少額だったため。また、筆耕翻訳料については、予定より少額だったため。報償費については委員1名が欠席。(「大山街道ふるさと館イメージアップ事業」へ572,000円流用)						
事業目標	様々な地域課題に対する市民からの提案を外部の選考委員会により公平に審査し、選定された地域課題を協働のルールに則り相互に連携・協力し解決していく。						
事業目標達成に向けた今年度の具体的な取組	(1)募集期間中に説明会を開催する。 (2)選定にあたっては、外部委員会と協議の上、最終的に区長が決定する。 (3)23年度実施事業については、中間ヒアリングや報告会などを通して所管課とともに事業の執行管理を行う。						
事業目標を達成する上での課題等	応募団体の減少が懸念されており、積極的に参加してもらえるよう募集内容や手段を検討する必要がある。						
実績	【委託先】選考委員会会議録作成業務委託：(株)澤速記事務所 (1)募集期間を延長する等スケジュールを調整した (2)提案事業の制度案内チラシを募集開始前に配布 (3)募集開始直前に制度の説明会・過去の事業報告会・事業に関連した市民向けの講座を開催 (4)26年度実施事業の募集・選定(選定事業数は3件)						
協働の視点	事業の選定から区民との協働を重視した事業であり、川崎市協働型事業のルールに則り事業を実施している。						
環境配慮への視点	(1)募集テーマに「環境まちづくりに関するもの」を設定した。 (2)委員会資料については、事前送付した資料を委員会当日にも持参していただくよう各委員に依頼し、用紙の削減に努めた。						
取組の成果	(1)募集開始前からのチラシの配布や関連講座を同時開催で行った説明会の開催等積極的な広報により、募集団体から団体から8団体へ増加した。 (2)選定に際しては、公開プレゼンテーションを実施したほか、選考結果等を随時ホームページ等で広報し、選考過程の公平性・透明性を確保することができた。						達成度  3

達成度 1:目標を大きく上回って達成 2:目標を上回って達成 3:目標をほぼ達成 4:目標を下回った 5:目標を大きく下回った

## 4 事業の方向性

取組の成果・予算編成等を踏まえ、翌年度以降の事業の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善のうえ継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続 <input type="checkbox"/> 現状どおり継続 <input type="checkbox"/> 事業を終了する
	積極的な制度周知により提案団体のすそ野を広がり、募集期間を延ばすことで募集団体が増加した等良い結果が得られた。制度については次年度以降も引き続き継続を行うが、募集から選定までのスケジュールの妥当性など、より良い事業提案ができるよう改善を積んでいく。

# 平成25年度 高津区地域課題対応事業 評価書

## 1 基本情報

予算中事業コード	40	予算小事業コード	05	事業名	高津区協働事業提案事業（まちのこぼれ話を拾う）		
事業所管課	企画課		担当者	佐藤	連絡先	044-861-3131	
関係局（局区連携事業は記載）							

## 2 地域課題・事業の概要

事業によって解決すべき課題	郷土史などには記録されない人々の「くらしの記憶」を「記録」としてとどめていくことは、まちの歩みを後世に伝える重要な手段である。戦中・戦後の高津を知る人は年々少なくなってきており、聞き取り調査を進め、記録に残していくことは、今取り組まなければならない喫緊の課題である。
事業概要	高津区における地域の昔の生活、町の様子などを古者から聞き取り、記録として残し、高津区ふるさとアーカイブ事業と連携して保存活用を進める。

## 3 予算・事業目標・取組の成果

予算額	200,000	決算額	200,000	不用額	0
不用の理由					
事業目標	二子地域の古者にインタビューを行い、文章にまとめるとともに、聞き取りの内容を伝えるためのイベントを開催する。				
事業目標達成に向けた今年度の具体的な取組	(1) 古者へのインタビューの実施 (2) インタビュー結果の文章化 (3) 聞き取り結果をもとにした朗読劇の制作とお披露目のイベントの実施				
事業目標を達成する上での課題等	地域の昔（戦前・戦中）を良く知る人は少なくなってきており、ヒアリング対象者をいかに確保できるかが課題となる。				
実績	委託先：NPO法人市民文化パートナーシップかわさき (1) 二子・諏訪・瀬田地域の12名にインタビューを実施 (2) 12名のインタビュー結果の文章化と冊子の発行 (3) 聞き取り内容をもとにした、朗読シナリオの制作。イベント「高津の昔話をさく」を3月16日に開催。参加者41名。				
協働の視点	全5回のプロジェクト会議の実施により、事業の進め方や役割分担の検討を丁寧に行った。インタビューやその記録など、事業の企画実施についてはNPOが主体的な役割を担い、町会へのインタビュー対象者の紹介依頼等、地元調整などについては、区役所が補助的な役割を担った。				
環境配慮への視点	事務連絡には極力メールを使用し、紙資源の節約を図った。また、インタビューでは、多摩川の豊かな自然や美しい景色についての思い出も多く聞かれ、これらの話を記録にまとめ、多くの区民に伝えることにより、高津区の自然環境の移り変わりに対する意識啓発につながると考えられる。				
取組の成果	当初は、二子塚など地域の歴史的資源についての聞き取り調査や、グループインタビューも想定していたが、一人ひとりから丁寧に話を聞き取ることで、地域の暮らしに深く迫ることができるとの考えから、個別インタビューを中心に取組みを進めた。それにより、多摩川との関わり方の違いなど、同じ地域であっても、それぞれの事象を多面的・重層的に捉えることが可能となった。また取組みの成果はHP「高津区ふるさとアーカイブ」の「おはなしアーカイブ」のコーナーに掲載するほか、冊子を図書館に納品することにより、多くの区民の閲覧が可能になっている。				達成度
					3

達成度 1:目標を大きく上回って達成 2:目標を上回って達成 3:目標をほぼ達成 4:目標を下回った 5:目標を大きく下回った

## 4 事業の方向性

取組の成果・予算編成等を踏まえ、翌年度以降の事業の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善のうえ継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続 <input type="checkbox"/> 現状どおり継続 <input type="checkbox"/> 事業を終了する
	本事業については、次年度についても協働事業提案事業のテーマとして設定しており、NPO法人市民文化パートナーシップかわさきとの協働により事業を実施することになっている。ヒアリング対象者の抽出方法等、今年度の経験を踏まえ、より効率的・効果的な実施方法を検討するとともに、対象エリアを広げ（梶ヶ谷・末長・新作の3地域）多くの人にインタビューを実施し、できるだけ早い時期に区内全地域を網羅することを主眼に取組みを進めていく。

# 平成25年度 高津区地域課題対応事業 評価書

## 1 基本情報

予算中事業コード	40	予算小事業コード	5	事業名	高津区協働事業提案事業 (高津ふれあい囲碁つながりプロジェクト)		
事業所管課	高津区役所こども支援室			担当者	佐々木	連絡先	861-3340
関係局(局区連携事業は記載)							

## 2 地域課題・事業の概要

事業によって解決すべき課題	コミュニケーションや人との関わりが希薄になり、いじめや不登校をはじめ、それを要因とする多くの社会問題が起きていると考えられている。人とのふれあいや世代間交流を通して地域コミュニティを活性化させ、人と人とのつながりを深めていく必要がある。
事業概要	高津区内保育園3園(橘保育園・蟹ヶ谷保育園・上作延保育園)の年長児対象に「ふれあい囲碁交流会」を通して、人と人がふれあう心地よさを体感する。 高津区内保育園3園(橘保育園・蟹ヶ谷保育園・上作延保育園)の年長児、保護者、職員、近隣住民、高齢者施設の利用者等により年度中に各6回「ふれあい囲碁交流会」を実施し交流を深める。

## 3 予算・事業目標・取組の成果

予算額	1,177,225	決算額	1,141,924	不用額	35,301
不用の理由	旅費、印刷費等の減				
事業目標	保育園を中心として園児、保護者、地域住民などが「ふれあい囲碁」を通して人とふれあう心地よさを体感し、区民の世代間交流を促進し、地域で子どもたちを育てる意識を高めることにより地域コミュニティの活性化を推進する。				
事業目標達成に向けた今年度の具体的な取組	①職員・関係者向けの研修の開催 ②ふれあい囲碁交流会の開催 ③碁盤等の作成				
事業目標を達成する上での課題等	地域との調整を図り、世代間交流を深める方法				
実績	①職員・関係者向けの研修の開催(1回) ②ふれあい囲碁交流会の開催(実施園3園×6回、計18回の開催) ③碁盤等の作成(持ち帰り用碁盤、ブルーシート製碁盤) ④ルールブックの作成				
協働の視点	保育園職員や交流先と協働で「ふれあい囲碁交流会」を企画・実施した。				
環境配慮への視点	ゴミの持ち帰りの推奨、資料については再生紙を使用した。				
取組の成果	日々の保育において職員と園児、園児と保護者のコミュニケーションが促進された。地域との交流を持つことで、世代間交流が促進された。				達成度
					3

達成度 1:目標を大きく上回って達成 2:目標を上回って達成 3:目標をほぼ達成 4:目標を下回った 5:目標を大きく下回った

## 4 事業の方向性

取組の成果・予算編成等を踏まえ、翌年度以降の事業の方向性	<input type="checkbox"/> 見直し・改善のうえ継続 <input checked="" type="checkbox"/> 終了を見越して継続 <input type="checkbox"/> 現状どおり継続 <input type="checkbox"/> 事業を終了する
	実施園においては、保育園と近隣住民等とのつながりが深まっており、自主的な事業推進が見込まれる。地域等での広がりを進めるため、次年度は実施保育園を公立の全園に増やして事業を推進し、今後は地域での自主的な運営を進めていく。

# 平成25年度 高津区地域課題対応事業 評価書

## 1 基本情報

予算中事業コード	40	予算小事業コード	05	事業名	高津区協働事業提案事業（住工混在地域における町工場と住民の交流促進事業）		
事業所管課	企画課			担当者	佐藤	連絡先	044-861-3131
関係局（局区連携事業は記載）							

## 2 地域課題・事業の概要

事業によって解決すべき課題	高津区内の準工業地域では、工場跡地でのミニ戸建建設が進む等、住工混在状況が近年複雑化しており、京浜地域のものづくり基盤を担ってきた同地域の町工場は操業環境の確保に不安を抱いている。本事業では、地域の住民との相互理解を深めるとともにものづくり資源の魅力や可能性を地域内外に発信することにより、町工場と住民が共存できるまちづくりの基盤構築を目的とする。
事業概要	川崎北工業会（久地・宇奈根地域）、下野毛工業協同組合、専修大学経済学部遠山ゼミ、川崎フロンターレの連携で設立した高津ものまちづくり会と区役所との協働により、オープンファクトリー等による町工場と住民の交流促進、各種イベントへの出展によるものづくり資源の魅力の区内外への発信、さらには、これらの取組みを通じた事業者間のネットワークづくりを行う。

## 3 予算・事業目標・取組の成果

予算額	1,450,000	決算額	1,450,000	不用額	0
不用の理由					
事業目標	(1) 町工場と地域住民との相互理解を深める。 (2) ものづくり資源の魅力や可能性を地域内外に発信する。 (3) 学生の創意工夫により、ものづくりの魅力効果を効果的に発信する情報ツールを作成する。				
事業目標達成に向けた今年度の具体的な取組	(1) 久地・宇奈根、下野毛の2地域におけるオープンファクトリーの開催 (2) 川崎フロンターレホームゲーム同時開催イベントとして「たかつものづくりフェア」の開催 (3) 「てくのまつり」への出展				
事業目標を達成する上での課題等	各イベント開催に際して多くの事業者の参加・協力を得るために、事業の趣旨やその重要性を工業会の会合等様々な機会を捉えて働きかけをする必要がある。また、オープンファクトリーについては、将来的にも自立的に継続ができるよう、広報や受付、当日の運営方法について効果的・効率的な手法の検討が求められる。				
実績	【委託先】高津ものまちづくり会 (1)-1久地・宇奈根オープンファクトリーを11/9（土）午後開催。延べ来場者数200名（実人数80名程度）。 (1)-2下野毛オープンファクトリーを2/16（土）10:00~15:00に開催。延べ来場者数300名。（実人数150名、降雪にも拘らず多数の来場者を得た） (2)高津ものづくりフェアin等々力を9/21（土）に開催。川崎フロンターレホームゲーム高津区民招待者748名来場、高津区民来場者推定数2~3000名 (3)「てくのまつり」（2/16（土）開催）において「ものまちプラザ」を開催。「ものまちプラザ」延べ来場者数104名。学生が作成した企業や地域の情報パネルを展示。				
協働の視点	各イベントの企画運営は高津ものまちづくり会が中心的な役割を果たし、区役所は広報活動支援のため地元町内会や学校との連絡調整を担った。また、工業振興課との情報共有にも努め、必要に応じて助言や支援を得ながら事業を実施した。				
環境配慮への視点	ものづくり企業各社が住工混在地域で工場を操業していくにあたってどれだけの環境配慮を行っているか、オープンファクトリー等を通じて地域住民に正しい情報を伝えていくことも本事業の重要な意義の一つであると考えられる。				
取組の成果	高津ものまちづくり会を構成する、それぞれの団体が強み（川崎フロンターレ：独自の媒体やネットワークによる情報発信力、専修大学：学生の創造力とネットワーク、工業会：事業者間の連携と地元とのつながり）を発揮したことにより、各イベント内容の充実と集客につながり、ものづくりの魅力を地域内外に広く発信することができた。また、ものづくり体験の新しいコンテンツ（解体BOX、スイッチ体験、端材アート）の開発は今後活動を継続する上での財産となると考えられる。さらに、各イベントの成功により、ものまちづくり会の活動に興味を持つ事業者も増えてきており、参加事業者数の増加も期待できる状況である。				達成度
					3

達成度 1:目標を大きく上回って達成 2:目標を上回って達成 3:目標をほぼ達成 4:目標を下回った 5:目標を大きく下回った

## 4 事業の方向性

取組の成果・予算編成等を踏まえ、翌年度以降の事業の方向性	<input type="checkbox"/> 見直し・改善のうえ継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり継続 <input type="checkbox"/> 事業を終了する
	今年度実施したイベントについては、26年度も継続し地域への定着を目指すとともに、橋ふるさと祭り等区内の大規模イベントへの出展も検討していく。また、久地・宇奈根地域、下野毛地域に限定せず、区内他地域のものづくり企業の情報収集にも着手し、将来的に計画している「高津区ものづくり企業マップ」の改定版発行に向けた足がかりとしていく。